

防火用強化ガラスのご注意



ご注意

- ① ファイアレックス、スーパーファイアレックスは平板のみです。孔あけ、切り欠き、曲げ加工などはできません。また、製造後の切断はできませんので、寸法および形状は正確にご注文ください。
- ② スーパーファイアレックスは複層ガラスや合わせガラスなどとしてはご使用になれません。
- ③ 熱処理をしているため通常の板ガラスに比べて反射映像や透視映像のゆがみが大きくなりますので、予めご了承ください。なお、ファイアレックスを合わせガラスとして使用する場合、ファイアレックスを単板として使用する場合より、ゆがみが大きくなる傾向がありますのでご注意ください。反射映像や透視映像を重視する場合は、事前に弊社・販売会社までご相談ください。
- ④ 熱処理をする際、搬送ロール表面の凹凸が転写され、ロールの跡が残る場合があります。また、生産上の部分的な温度差によりまして、筋状、または斑状に模様が見える場合がありますが、熱処理特有の現象ですのでご了承ください。
- ⑤ 光の当たる角度と見る角度によっては、ガラス表面に偏光による特殊な模様が見えることがありますが、製造上避けられない現象ですので、予めご了承ください。
- ⑥ ガラス面やエッジに傷をつけますと強度が低下します。通常の板ガラスと同様に扱ってください。
- ⑦ ガラスの表面やエッジに深い傷が入ると破損することがあります。
- ⑧ ごくまれに外力が加わっていない状態で不意に破損することがあります。P.32の「強化ガラスを安全にお使いいただくために」をご参照の上、不意の破損による被害の発生を防止するようご配慮ください。
- ⑨ フロート板ガラスと比較して、表面が傷つきやすいため、クリーニングの際にカッターや金属製のスクレーパーなどは使用しないでください。スクイージ（ガラス清掃用水切り器具）の金属部分がガラスに触れないようご注意ください。
- ⑩ その他、ガラス共通の注意事項が記載されていますP.2～5の「ガラスを安全にご使用いただくために」をご参照ください。



設計・施工上のご注意

- ① 防火戸はガラスのみではなくサッシ枠と一体で認定されます。認定の有無やその仕様をよく確認の上、ご使用ください。
 - 防火設備の場合
 - ※ 所定の防火性能を確保するために、社団法人カーテンウォール・防火開口部協会の定める標準仕様書で指定されている施工方法・施工材料により施工してください。コーナー部など、ガラスの突き合わせ施工はできませんのでご注意ください。
 - ※ 社団法人カーテンウォール・防火開口部協会が取得している認定の適用範囲外でのご使用の際は、別途認定の取得が必要となります。
 - 特定防火設備の場合
 - ※ 特定防火設備はガラス単独ではなくサッシや枠と一体で個別に認定されますので、認定された仕様を確認の上ご使用ください。
- ② 定められた施工法、副構成材料以外で施工された場合、防火設備としての性能が確保されない恐れがあります。なお、使用場所、面積、寸法などの制限がありますので、必ず仕様をご確認ください。
- ③ 30分の耐火性能が要求される耐火建築の屋根やトップライトなどには使用できません。また防火用以外などで、200℃以上の高温に繰り返しさらされる暖房器具などの用途での使用はお避けください。
- ④ エッジに貼ってある保護テープは、施工の際には剥がさずにそのままお使いください。エッジに傷をつけると、防火性能が維持できない可能性があります。運搬時、施工時には特にご注意ください。
- ⑤ 耐風圧強度検討は、一般の強化ガラスと同一のものとして計算してください。その場合、フロート板ガラスの約4倍の強度となるため、大きなサイズではガラスのたわみが気になる場合がありますのでご注意ください。
- ⑥ 防火用強化ガラスの使用部位は容易に日常点検が可能な箇所に限定されることを推奨します。
- ⑦ その他、ガラス共通の注意事項が記載されていますP.2～5の「ガラスを安全にご使用いただくために」をご参照ください。